The University of Osaka
Institutional Knowledge Archive

Title	＜紹介＞島津忠夫著『若山牧水ところどころ一近代短歌史の視点から一』
Author(s)	池田, 弘明
Citation	語文. 2014, 102, p. 40-40
Version Type	VoR
URL	https://hdl.handle.net/11094/70936
rights	
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

https://ir.library.osaka-u.ac.jp/

The University of Osaka

島津忠夫著『若山牧水ところどころ―近代短歌史の視点から―』

池田弘明

本書『若山牧水ところどころ―近代短歌史の視点から―』は、『島津忠夫著作集別巻二』にあたる。島津氏は、万葉から現代短歌まで、広い学識を有する研究者であると同時に、歌人でもある。氏は、本書において、近代短歌史を語るうえで看過することのできない、若山牧水（一八八五～一九二八）を、多角的にとらえている。本書の目次は以下の通りである。

口絵　弥勒祐徳画「尾鈴山」（都農よりの景）／一　東の歌人と西の歌人―「はしがき」に代えて―／二　牧水の祖父健海とその出身地／三　尾崎楓水と牧水／四　創刊当時の「創作」／五「創作」（第一期）の終刊から「自然」へ／六　牧水と石川啄木／七　『海の声』『独り歌へる』と『別離』／八　『路上』の世界／九　『死か芸術か』―序文と所収歌と―／十　『みなかみ』（1）『みなかみ』―その本質―（2）尾鈴山―坪谷と都農、付　美々津―／十一　幻の歌集『秋の落葉』と『秋風の歌』『砂丘』／十二　第二期、第三期の「創作」と太田水穂／十三　二つの自選歌集―『行人行歌』と『若山牧水集』―／十四　「渓百首」と「山桜二十五首」／十五　牧水と前田夕暮―「アルス名歌選」をめぐって―／十六　牧水の沼津時代（1）沼津市若山牧水記念館を訪ねて（2）三ヶ島葭子宛若山喜志子書簡（3）「詩歌時代」／十七　晩年の牧水の歌の評価をめぐって／十八　牧水の没と「創作」の内紛／十九　若山喜志子／二十　若山旅人著『明日にひと筆』を読む／二十一　長谷川銀作と白石昂（1）長谷川銀作（2）「余情」の「若山牧水研究」号（3）白石昂／索引／あとがき

「十六」の「（1）沼津市若山牧水記念館を訪ねて」は本書の性質を端的にあらわしているといってよい。それぞれの章では、著者が、沼津市若山牧水記念館、若山牧水の歌碑、生家等、牧水にゆかりのある場所を訪ねることから語り始められるなど、本書では、資料紹介のみならず、著者がその資料に行きつく過程や、若山牧水ゆかりのものと著者との邂逅の過程が描かれることが多々あり、四角張った研究書とはまた違った、親しみ易いものとなっている。加えて十七点（資料四葉、若山牧水ゆかりの地や歌碑が十三葉）の写真（モノクロ）が本書のところどころに配されていて、言及されている土地、場所のイメージがわきやすい。また、本文中、参照すべき論文が多数示されており、本書は若山牧水研究の手引書としての一面も併せ持つ。索引には、人名索引、書名索引、事項索引の三種類があり、充実したものになっている。なお、本書の出版社である和泉書院のホームページには、『島津忠夫著作集』すべての巻（別巻含む）の紹介が載せられている。併せて、ご覧いただきたい。

（和泉書院、二〇一三年十月五日、三三五頁、三、五〇〇円）

（いけだ・ひろあき　本学大学院博士後期課程）